

『風と光』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

首長さんと語る会 富士吉田市・富士河口湖町



市長さんと話す会
富士吉田市長さんと話す会

○11月9日(火) 富士吉田市民会館小ホールにおいて、「第49回 市長さんと話す会」が行われました。「私たちが大人になったときに富士吉田がこんなまちになってほしい」をテーマに、「伝統文化を受け継ぐことができるまちづくり」「防災を意識した安全できれいなまちづくり」を話し合いの柱として、富士吉田市長、教育長と市内各小中学校の子どもたちが参加して意見交換を行いました。「市長さんを変え、対面で話すことができたことはよい経験となった。たくさんの人たちとのつながりの中で、今自分たちは生活できているのだと実感できた」と参加者からの感想がありました。

○11月17日(水)に富士河口湖町の児童会・生徒会のリーダー、ふじざくら支援学校、富士河口湖高校生らが「富士河口湖町をさらに豊かな町にしていくためには」をテーマに富士河口湖町子ども議会を開催しました。河口湖南中学校の下野駿太さんが議長を務め、町長さんや各課長と「環境美化(ゴミ問題)への提言」「観光促進や防災に関する提案」「企業誘致や町内就職への支援」「公園・遊具の設置」等の内容について意見交換がされました。子どもたちが自分たちの住む地域の現実の問題を真剣に考える姿は、印象的でした。



富士河口湖町子ども議会

地域教育「明日の風」小林雅英野球教室ファイナル in 都留高校

北都留地域教育推進連絡協議会(会長:小林信保大月市長)では、12月11日(土)に都留高校において、同校卒業生で大月市出身の元大リーガー、2004年アテネオリンピック日本代表の銅メダリスト 小林雅英氏による野球教室を開催しました。

この教室は、郷土出身のアスリートとの出会いを通して、子どもたちが自分の将来に夢や希望をもって生きていこうという意欲を育てることを目的とした活動です。今年で21回目となる同教室には、大月市・上野原市のスポーツ少年団の児童や中学校の野球部の生徒、約125名が参加しました。また、実技講習会の後には、同校体育館において、講演をしていただきました。



『Dreams Come True』と冠した地域教育「明日の風」に参加している子どもたちに、『夢』を持ち、明確な『目標』を掲げて、本気で取り組むものを見つけしてほしい。本気で取り組むことで自分がかわり、周りもかわる。」と小林さんはエールを送っていました。

小林さんが現役時代から継続してきた本教室ですが、今回の開催をもって最後とさせていただきます。小林さんの活動に対して子どもたちから感謝の言葉と小林会長から感謝状を贈りました。



ふるさと発見ワークショップ 富士吉田市立教育研修所



富士吉田市立教育研修所（村松 悟所長）は、「進路決定前の中学校3年生にふるさとで生きる価値を伝え、地域で活躍する若者から職業観を聞くことで生徒のキャリア発達を図る」目的で、市内4中学校で「ふるさと発見ワークショップ」を11月2日（火）に行いました（市内4校実施は2年目）。

富士吉田市地域振興・移住定住課、商工振興課、かえる舎、教育研修所が協力して、多様な職種に従事する17名の若手講師に「自分にとっての地域とは、仕事とは何か」を語ってもらい、生徒とのワークショップをおこないました。

コロナ禍で職場体験ができなかった生徒にとって、年齢的に近い先輩たちから直接話を聞き、質問できる機会は貴重な体験となりました。

林業体験活動(南都留森林組合) in 秋山小学校



上野原市立秋山小学校（渡邊正司校長）には、学校林があり、10年以上前から南都留森林組合の協力の下、学校林の整備などの「緑の少年隊」活動を行ってきました。昨年度は学校林の歩道づくりを、今年度は11月29日（月）に間伐作業を行いました。

5・6年生17名が二手に分かれ、森林組合の方の指導に従って、ノコギリで杉の木を切り、力を合わせてロープで引き倒しました。

その後、学校で例年行っている「キノコの菌打ち体験」を行いました。ドリルで1本に20個の穴を開け、菌を打ち込みました。2年後には、立派なしいたけが育っていることでしょう。

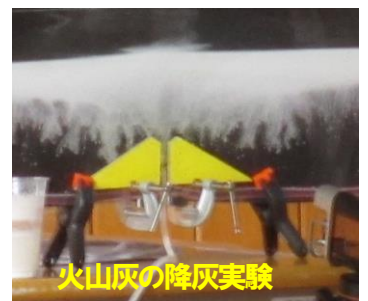


親子で学ぶ！ 親子ふれあい授業参観（防災教育）in 勝山小学校

10月28日（木）富士河口湖町立勝山小学校（小石川 浩校長）において富士河口湖町立教育センター（梶原 齊所長）と連携した「親子ふれあい授業参観」が、県富士山科学研究所の協力の下行われました。

これまでの防災教育（富士山学習）を踏まえ、子どもだけでなく保護者にも富士山噴火について理解してもらい、富士山が噴火した時の行動を親子で考えてもらうことを目的に実施されました。

富士山ハザードマップは、火山現象や避難情報をわかりやすく示す「火山防災マップ」の作成、避難計画の作成などの基礎になるものです。最新の知見で令和3年3月に改定された「富士山ハザードマップ」を是非一度ご覧になって、家庭で話題にしてみてください。

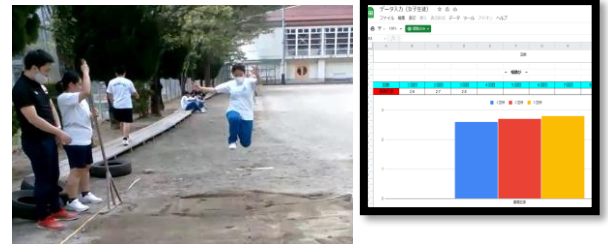


GIGA スクール構想の現状（富士・東部管内）

秋山中学校 授業等に ICT を導入した事例

今回は吉田 威教諭が行った体育の授業を紹介します。吉田教諭は陸上競技（走り幅跳び）の授業で、跳躍映像や距離記録をグラフ化し、模範との比較を通じて学習者の学びの育成を行いました。また、オンライン授業の際には、角川書店の絵本で赤ちゃん向けダンス絵本の作成や「桃太郎」絵本をダンスで表現する活動を行いました。

上野原市立秋山中学校（山崎明彦校長）では様々な場面で、ICT の利活用がなされています。



対面授業になった際には、生徒からの提案を受けて創作ダンスの授業で ICT を用いてグループで作成した後、全体への共有化を図りました。これ以外にもミライシード「オクリンク」を用いて目的に応じた「体づくり運動」を行って、トレーニングカードを作成しました。

秋山中学校の学校行事においても、前期生徒総会等、生徒会活動、HP の更新等で ICT 機器を積極的に取り入れています。

西桂中学校 G Suite for Education 利活用



西桂町は、他の地域に先駆けて ICT 端末の整備を行ってきました。西桂町立西桂中学校（知見晴弘校長）では、一人1台端末(Chromebook)を日常的に利用する中で、「Classroom」「Meet」「Jamboard」「Form」機能を活用しています。

コロナ対策として2教室を1クラスで使用（廊下に教卓、白板を置く：「密」の解消）していますが、Meet 機能を用いたライブ配信は非常に有効です。また（株）ライズの「eライブラリ」を導入し、生徒の自主学習を支援しています。



学習支援ソフト「eライブラリ」

インターネット接続環境があれば、どこでも使える（自習用）Web教材。小学校3年生レベルからの教材があり、生徒は自宅から自分のスマホやPC等からアクセスが可能。生徒の学習履歴も教員は閲覧できるので、いつ・何の教科を学習したか確認することもできる。

上野原小学校 ピンチをチャンスに ICT 利活用(校内研修)

上野原市立上野原小学校（大場 卓校長）では、「ICT を教員がまず学ぶ」ために、ミニ研修を含めた校内研究を行ってきました。今年度は、常葉大学の三井一希先生を講師に迎え、1回目の研修会では「国や文部科学省等が示す ICT の活用について」を総括的に教員全体で共有しました。その後、先生方の試行錯誤から生まれた実践や疑問を2回目の研修会において発表し、アドバイスをいただきました。以前は苦手意識のあった教員が、実践発表をしている姿を見て、講師は先生方の進歩に驚いていました。研究は2年計画で、次年度はいよいよ授業実践へと進んでいきます。

上野原地域は感染症防止対策としてオンライン授業を実施しました。上野原小ではもともと教科担任制への対応も検討していたことから、各学年担当者がチームとなって授業の構成を工夫しました。複数クラスの授業を1つにして主に授業を配信する先生と子どもの反応の確認や支援をする先生に役割を分担することで、きめ細やかな指導が可能になりました。現在PCの家庭への持ち帰りを実施し、家庭学習や授業の振り返りに活用しています。





11月2日(火)に富士吉田市立吉田中学校(三浦雅彦校長)において、富士吉田市立教育研修所(村松 悟所長)が主催する「富士吉田地区小中高連携事業」の一環として、ICTを利用した3年生の授業(英・社・数・理)視察が行われました。

数学の授業では、角度の求め方を生徒がアイデアを出し合い、タブレットを用いて共有しました。その後、大型スクリーンでクラス全体が画面共有し、口頭による説明も行いました。生徒たちはソフトの使い方にも慣れており、スムーズにPCを使いこなしていました。その後、富士北麓地区の高校校長らとICTの活用状況及び「自動採点ソフト」の運用方法について協議がされました。

「自動採点ソフト」は、吉田中学校で先進的に、教職員の多忙化解消の取り組みとして進められています。この導入により、採点による業務時間が大幅に縮小され、教職員が子どもたちのための時間を生み出すことができます。

次年度から高校でも一人一台PCの利活用が始まるため、中学校の現状を知るよい機会となりました。

猿橋小学校ピアノトリオコンサート

～クラシック音楽紀行～

12月6日(月)、大月市立猿橋小学校(中山 繁校長)の体育館において、同小と銘楽堂の共催による「猿橋小ピアノトリオコンサート～クラシック音楽紀行～」と題した音楽会が開催されました。

銘楽堂の芸術監督も務めるピアニスト 望月恭子さんは軽妙なトークを交え、ピアノ・ヴァイオリン・チェロで最上級の音楽を奏でてくれました。

小学生にも馴染みのあるホルストの「ジュピター」、ブラームスの「ハンガリー舞曲」などの曲が演奏され、最後に、望月さんがアレンジした「猿橋小学校校歌」が披露されました。普段、子どもたちが使用している体育館が、素晴らしいコンサートホールに変わり、参加者たちはコロナ禍の自粛生活が続く中で素敵な時間を過ごすことができました。



※「銘楽堂(めいがくどう)」=富士の麓で芸術文化を振興し、クラシック音楽の素晴らしさを普及させたいという栗井英朗氏(富士山の銘水株式会社代表取締役社長)の強い思いから最高級ピアノサロンとして造られました。コンサートサロンや音楽教室を兼ね備え、音楽を通じた芸術事業普及活動に取り組んでいます。



富士北稜高校 多様性を学ぶ講演会 ブルボン又さん

県立富士北稜高校の塩入由里校長の「多様なものの考え方を受け入れる生徒になってほしい」との願いのもと、11月26日(金)に女装パフォーマーのブルボン又さんが「男らしさ、女らしさより自分らしさが社会を変える」と題し、特別講演会を行いました。

ブルボン又さんは、小学生の頃から中高の思春期を経て、同性・異性に対する自身の経験を語り、昔は社会において男女の位置づけや職業の区別など多くの差別があったことやジェンダー・性自認・性的指向についてわかりやすく説明してくれました。また、現在はLGBTの割合が8.9%で大企業においても社会的に受け入れられるようになってきている現状を紹介しました。ただ、日本の若者の自己肯定感の低さも指摘し、「自分を好きであること」で生き方が変わると語っていました。

多様な性の形、多様なものの考え方について「真面目に考える」時間でした。



富士河口湖高校 KIP (1年) 高校生のためのグローバルビジネス論

県立富士河口湖高等学校(小俣義一校長)ではKIP(KAWAKO INSIGHT PROGRAM)として「総合的な探究の時間」の取り組みを行っています。「地域課題について知る」をテーマに「地域の課題や自らの将来について意識し、把握する」を探究課題とした1年生は、「学術分野を知る」分野においてキャリア教育の観点から上位学校での「学び・現状」について学び、身の回りの現象と学問、仕事がどのようにつながっているかを理解します。



10月27日(水)には、都留文科大学 地域社会学科 佐脇英志教授が「高校生のためのグローバルビジネス論」と題した講義を行いました。講師自身の海外経験から日本企業の課題を指摘し、これからの時代を生きる起業家としてスティーブ・ジョブズの企業精神や武田信玄の開拓的戦術を紹介しました。

生徒たちは自己の意見をタブレットに入力し、その意見はWebClassのチャット機能を通して全体に共有されました。グローバルなつながりを実感できる高校生に向けた熱いメッセージを感じさせる講義でした。

富士北稜高校 織物PR 装飾バス「ハタオリ号」



県立富士北稜高校(塩入由里校長)の2年生が「総合的な探究の時間」で地域と連携して取り組んできた織物装飾バスのお披露目会が、11月12日(金)に富士北稜高校で行われました。

この事業には、富士吉田市、富士急行株式会社、富士吉田織物協同組合、繊維産業活性化地域おこし協力隊、NPOかえる舎等が協力して、高校生のアイデアを現実化しました。市内を循環する「タウンズニーカー」3台(青・赤・黄)をラッピングして、令和3年12月末まで運行されました。

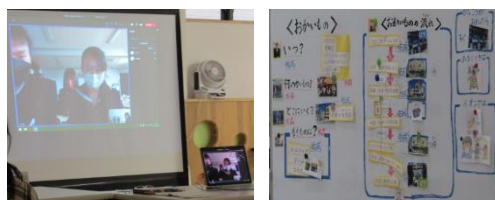


やまびこ支援学校×都留高校 リモート交流活動

県立やまびこ支援学校(小林 勝校長)と県立都留高校(廣瀬浩次校長)の交流は、20年以上前から続く活動で、やまびこ支援学校の寄宿舎の「なつまつり」等で様々な交流を行ってきました。しかし、昨今の「コロナ禍」で対面による交流が難しくなっていました。

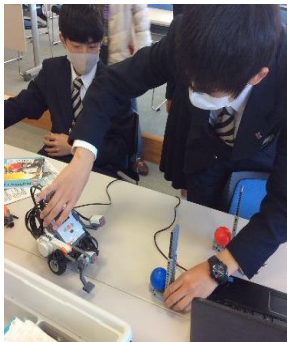
そこで今年はやまびこ支援学校の寄宿生6人と都留高校のボランティア同好会12名とが、リモートでの交流会を11月4日(木)に行いました。4~7月にプロフィール交換を行い、9~10月にお互いに聞きたいことや伝えたいことなど交換し合いました。

当日は、モニター越しでしたが、顔を合わせて自己紹介をし合い、「イントロクイズ」をして一緒に遊びました(勝敗は5対3で、やまびこチームの勝ち)。また、質問タイムの中で「パブリカ」のダンスを寄宿生が披露しました。「来年こそは直接会って、交流をしましょう!」を合い言葉に、リモートによる交流会は終了しました。

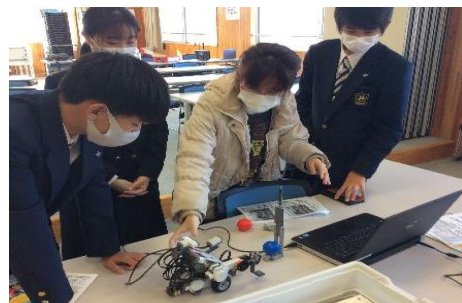


吉田高校×山梨大学 メカ・パイロット講座

県立吉田高等学校（古屋勇人校長）では、オープン・スタディー（土曜学習会）の中で、山梨大学ものづくり教育実践センターの協力のもと「メカ・パイロット講座」を6年前から開講しています。



11月20日（土）に、山梨大学大学院総合研究部 工学域機械工学系の牧野浩二先生らを講師に、「レゴブロックでロボットを組み立て、プログラミングして動かす」をテーマにして、教育用レゴマインドストームNXTでライトレースロボットを作製しました。音センサー・光センサー等の働きを理解し、決められた動作をプログラム制御によっていかに早く、正確に自走させるかを学びました。先生は制御工学（人工知能の研究）を専門とされていて、センサーを用いた機械制御プログラムの基礎をわかりやすく伝えてくださいました。特に、プログラムのアプローチの仕方は様々あり、生徒たちはアイデアを出し合って試行錯誤しながらプログラムを構築していました。



コロナに負けるな 大月短大生に食糧支援

地域の皆さんに感謝！

コロナ禍における学生支援として、9月1日付新聞に掲載された「大月短大生に食糧支援を！」（期間：9月15～25日）に多くの方々から協力をいただきました。実行委員（小笠原会長）42名と18名のボランティアの短大生で支援物資の仕分けを行い、10月28・29日（木・金）の両日に大月短期大学の体育館で食糧・日用品の配布を行いました。

1. 2トンの米や600kgのジャガイモの他、多くの支援物資の提供をいただきました。両日とも1時間ほどで用意した支援物資がなくなり、延べ500名を超える学生が来場しました。

大月短大には、全国から学生が入学しています。新型コロナの影響で帰省もままならず、生活する学生たちにとって、支援をしていただいた方々とのつながりは、勇気と温もりを感じることができる機会となりました。



地域教育「明日の風」 第4回アスリート実技講習会



模範陸上競技

11月6日（土）大月市宮陸上競技場において小中学生およびスタッフを含めた約90名で第4回アスリート実技講習会が、行われました。

100m、60mH、長距離、走り幅跳び、走り高跳び、ジャバボールスローの6種目を大月陸協の方の協力の下、記録会形式で行いました。また都留文科大学陸上競技部の監督・選手たちも、子どもたちと一緒に競技に参加してくださいました。

特に、走り高跳びの土屋俊貴さん（県選手権2位）、走り幅跳びの磯部晃太郎さん（関東インカレ優勝）によるデモンストレーションには、多くの子どもたちが喝采をおくりました。

（株）卯月林業さんから「スタッフベスト」の贈呈をいただきました。



模範陸上競技



スタッフベスト贈呈式

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。】

URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> ｝

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841